

園だより 4月

あなたがたは神に愛されている子どもです。

エフェソの信徒への手紙 5章1節

ご入園・ご進級おめでとうございます。

待ち遠しく思っていた園庭の桜が満開のときを過ぎました。大門通り幼稚園前植え込みの土筆も伸びています。昨年度子どもたちが植えたチューリップは、色とりどりに咲き誇り新しく始まるときを持ち望んでいました。春が来ました。

新しい年度が始まります。それぞれに、心を躍らせながらの子どもたちがいます。ドキドキして不安そうな子どもたちもいます。一人ひとりその心持ちは違います。保育者たちはその心持をそのままに、大切に受け止めることから新年度をスタートいたします。4月のこれまでの日々も、子どもたちが安心して新年度を始められるようにと、幼稚園全体、及び各クラス的环境を整え、子どもたちがどの様な様子で個々のマークと出会うのかを楽しみに、一人ひとりのマークを描き備えのときを過ごしました。

加えて、今年度の主題・学年目標・4月の園生活を、これからの育みや子どもたちの様子を丁寧に思い巡らしながら、保育者たちの願いも込めて表現いたしました。言葉は出来るだけ抽象的な表現を選んでいきます。もしかすると、もっと分かりやすく直接的な言葉の方がご理解いただけるのかもしれませんが、けれどもその抽象的な言葉であるからゆえの余韻にそれぞれの方々の想いを重ね、大切に感じていただけることを願い、敢えて分かりやすさよりも、そこに込めた想いを大切に表現させていただいております。

園だよりではその表現を、よりご理解いただけるようにとお伝えさせていただいております。ぜひお読みいただき、子どもたちへの保育者の思いであったり、子どもたちの姿であったりを想像しながら共感していただければ嬉しく思います。これからも毎月目標に対する想い、願いはお伝えさせていただきます。続けてお読みいただけますことをよろしく願いいたします。

明日からの幼稚園の日々、保護者の皆様にご理解とご協力をいただき、「今のその子どもの心持ち」としっかり向き合い「いのちが輝く日々」を過ごして参りたいと願います。神様のゆるぎない御手に支えられつつ...宜しく願い申し上げます。

園長 駿河 幸子